

## オーディオ実験室収載

### トランスポートの聴き比べ(HP 収載)

#### 1. 始めに

各種トランスポートについてはオーディオ実験室のデジタルプレイヤーのページで SA11-S2、EMT981、EMT982、LHH-1000 の導入経過のレポートで個別に報告してきましたが、DSD に取り組むようになってからは、主として EMT981 を使用してきました。そこで DSD 再生条件が一応ベストと思われる状態に落ち着いたところで手持ちのトランスポートの聴き比べを行ってみました。

#### 2. トランスポートの試聴方法

使用するトランスポートは次のものです。

Marantz SA11-S2



上段 : EMT981 下段 : EMT982



47 研究所 4716 信楽

47 研究所の 4716 信楽以外は CD プレイヤーですが、デジタルアウトの音を聴いていますので一括りにトランスポートとしました。この他にも Marantz の CD-95 と Philips の LHH-1000 がありますが、別室や別宅に移動していますので、今回は見送ります。

試聴ルートは次のとおりとします。

Transport→CCV-5 (96KHz) →TASCAM DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (TASCAM DA-3000 から WORD 入力)

ここで 4716 以外は外部クロック入力を受けつけますので、SA11-S2 には 176.4KHz を、EMT981 と EMT982 には 44.1KHz をそれぞれ GPS-777 から入力しています。

### 3. トランスポートの試聴結果

SA11-S2 と 4716 信楽は DSD 変換して聴くようになってから初めての試聴ですが、随分と以前の印象と違ってクオリティが上がっています。その中で違いを言えば、SA11-S2 は切れ込みがあって透明度が高いのですが、中高域が華やかになります。その点、4716 信楽の方はちょっと切れ込みには物足りないところがありますが、バランス良く、言わば「普通に良い音」という印象です。

ところが、EMT981 と EMT982 が前 2 者と違って、ぐっと楽器の質感が前面に出てきます。しかも EMT981 の方が EMT982 より質感の表現が濃いのです。EMT982 の方が 4716 信楽寄りと言った方がいいのかも知れません。

以上は、通常の CD の印象ですが、インフラノイズの有山麻衣子のマスタークオリティ盤になると事情が違ってきます。即ち、4 者の印象がぐっと近接して、細かいことはどうでも良い、4716 信楽のような昔の機器でも良い、ヴィンテージの名機の必要はないといった印象になります。これがこの盤の特徴で、いろいろと再生機の方で手を加えて音を良くするというのを盤の方でやってくれているといった印象です。

### 4. まとめ

DSD 変換して聴くようになってから初めて聴くものは、随分と印象が良くなっていますが、やはり EMT はそれだけの値打ちがあるという印象です。しかし、インフラノイズのマスタークオリティ盤では、盤の方から、再生の問題を解決しているような印象を持ちました。

以上